

〔書言字考節用集二〕乾坤一守山江洲野郡

〔源平盛衰記十九〕佐々木取馬下向事

高綱ハ略中京ヲバ未明ニ出タレ共不習歩道ナレバナヘグ其日ハ守山ノ宿ニ著知タル者

ニ馬ヲモ乞乗バヤトハ思ヘドモ都近程也世中ツマシク思ケレバサモナクテ曉ハ守山ヲ立

野洲ノ河原ニ出ヌ

〔古今著聞集五〕同大將源頼朝源もる山にて狩せられけるにいちごのさかりになりたるをみて

ともに北條四郎時政が候けるが連歌をなんしける

もる山のいちごさかしくなりにけり大將とりもあへず

むばらがいかにうれしかるらん

〔書言字考節用集二〕乾坤一篠原江洲野郡

〔吾妻鏡四〕元暦二年六月二十一日壬申卯刻廷尉著近江國篠原宿

〔今昔物語二十八〕近江國篠原入墓穴男語第四十四

今昔美濃ノ國ノ市へ行ケル下衆男ノ近江ノ國ノ篠原ト云フ所ヲ通ケル程ニ空暗ク雨降ケ

レバ立宿リスベキ所ヤ有ルト見廻シケルニ人氣遠キ野中ナレバ可立寄キ所无カリケルニ

墓穴ノ有リケルヲ見付テ其レニ這入テ暫ク有リケル程ニ日モ暮テ暗ク成ニケリ

〔吾妻鏡十五〕建久六年三月四日己丑將軍出江州鏡驛前羈路鞍馬給

〔書言字考節用集一〕乾坤一番馬江州大郡

〔藤河の記〕近江の國に番馬といふ所より路をかへて南へ行番場を物の名にとりなして

わくるの、まだ未遠きくさばには日かげの駒よまばしとままれ

〔近江國番場宿蓮華寺過去帳〕敬白